

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】令和1年8月22日(2019.8.22)

【公表番号】特表2018-510348(P2018-510348A)

【公表日】平成30年4月12日(2018.4.12)

【年通号数】公開・登録公報2018-014

【出願番号】特願2017-551055(P2017-551055)

【国際特許分類】

G 0 4 B 27/02 (2006.01)

【F I】

G 0 4 B 27/02 A

【誤訳訂正書】

【提出日】令和1年7月11日(2019.7.11)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

巻上げ機能と $m > 1$ である m 個の修正機能から時計機能を選択するための装置(400)であって、制御部材(3)を含み、前記制御部材は、前記制御部材の第1方向への変位により巻上げ機能を選択し、前記制御部材の第2方向への変位により m 個の修正機能から1つの機能を順次選択するよう適応され、

前記制御部材は単安定である、装置。

【請求項2】

前記制御部材は、巻真である、請求項1に記載の装置。

【請求項3】

前記選択するための装置は、フレーム要素に回転可能に搭載された可動体(4)を有し、その回転方向は前記制御部材の並進方向により決定される、

請求項1または2に記載の装置。

【請求項4】

前記可動体(4)を第1方向へ連続して駆動するための部材(90)を有する、請求項3に記載の装置。

【請求項5】

前記駆動部材は、第1レバー(5)と、第2レバー(6)と、第3レバー(7)とを含む、

請求項4に記載の装置。

【請求項6】

前記第1レバーと前記制御部材とを静止位置に戻すよう配置される、第1戻しばね(R5)を有する、

請求項5に記載の装置。

【請求項7】

前記第3レバーを静止位置に戻すように配置される、第2戻しばね(R7)を有する、請求項5または6に記載の装置。

【請求項8】

前記可動体(4)は、前記連続的駆動部材(90)と相互作用するよう配置される歯部(40)を有する、

請求項４から７のいずれか一項に記載の装置。

【請求項９】

前記可動体（４）を位置に割り出すためのつめ（８）を有する、
請求項４から８のいずれか一項に記載の装置。

【請求項１０】

前記割出しつめ（８）は、前記第２レバーと相互作用するよう配置される、
請求項５を引用する請求項９に記載の装置。

【請求項１１】

前記可動体（４）を静止位置に戻すための要素（Ｒ４）を有する、
請求項３から１０のいずれか一項に記載の装置。

【請求項１２】

前記巻真の、前記巻真に対して押す方向の並進作動が、前記小型時計巻上げ機能の作動を引き起こすように配置され、または前記巻真の、前記巻真を引く方向の並進作動が、小型時計修正機能の作動を引き起こすように配置される、
請求項２、または、請求項２を引用する請求項３から１１のいずれか一項に記載の装置。

【請求項１３】

可動部材（３、２）と、 $n > 1$ 、好ましくは $n > 2$ である n 個の歯車（Ｅ１、Ｅ２、Ｅ３、Ｅ１'）と、それぞれ直接且つ恒久的に噛み合う巻上げ及びまたは修正用の制御歯車（１；１'）を含む、少なくとも１つの時計機能の巻上げ及びまたは修正用機構（１００）であって、各歯車は修正または巻上げの運動学的輪列の一部であり、各運動学的輪列はクラッチ（Ｄ１、Ｄ２、Ｄ３、Ｄ１'）を含み、少なくとも $n - 1$ 個のクラッチは垂直タイプであり、前記機構は請求項１から１２のいずれか一項に記載の装置を含む、機構（１００）。

【請求項１４】

請求項１３に記載の機構（１００）または請求項１から１２のいずれか一項に記載の装置を含む、小型時計ムーブメント（２００）。

【請求項１５】

請求項１３に記載の機構（１００）、及びまたは請求項１から１２のいずれか一項に記載の装置、及びまたは請求項１４に記載の小型時計ムーブメント（２００）を含む、小型時計（３００）。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００２０

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００２０】

機構は、真と、フレーム上に回転可能に搭載される可動体とを含む選択装置を含んでもよく、可動体の位置が真により決定され、可動体の位置がクラッチの作動状態または非作動状態を決定する。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００２１

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００２１】

可動体の回転は双方向でもよく、駆動部材は真と可動体とを運動学的に接続してもよい。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００２２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

可動体は、水平クラッチ可動体を制御してもよい。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

ここで図示する特定の実施形態においては、ムーブメントの表示機能の修正用の輪列と同数の、垂直クラッチ装置D1が存在する。異なる修正機能の制御は、可動体4、とりわけ真3の動作により回転作動される制御カム4により可能となり、それぞれN個の垂直クラッチの非作動状態と作動状態に対応する状態0、1を、N掛ける2段階分生成することを可能にする。各クラッチは、作動状態または連結状態、または非作動状態または解放状態に構成されることができる。好ましくは、クラッチのうち1つが連結状態にあるとき、他のクラッチは解放状態にある。このため、単一の垂直クラッチが作動され、とりわけN個の組み合わせのそれぞれが可動体4の角度位置に対応して、可動体4のN個の角度位置がN個の組み合わせに対応することで、N個の状態の組み合わせが存在することが可能となる。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

可動体4は、図示の実施形態のように、水平クラッチの動作も保証してよい。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0038

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0038】

図示した特定の実施形態において、ムーブメントの表示機能を修正する輪列それぞれに専用のN個の垂直クラッチの動作または制御を保証するため、可動体4は、図2に示すように、N個の窪みCiを示すよう構成される。窪みの側面Fiは、ムーブメントフレーム要素の平面に対して傾斜し、各窪みは特定のクラッチ装置の作動を許可することが意図される。各クラッチ装置Diには、制御歯車1と常時噛み合う入力歯車Eiが設けられる。入力歯車Eiの回転軸の位置は、ムーブメントフレーム要素の平面に固定される。可動体4の角度位置を決定する真3の作動に応じて、入力歯車Eiは、入力歯車と一体であり戻しばねRiの影響により軸方向に変位する滑動真Aiの軸方向の変位により、関連する運動学的輪列と噛合する能力を有する。ムーブメントフレーム要素の平面に対して傾斜する窪みCi及びまたは開口及びまたは斜面は、クラッチを作動または停止するように、クラッチの真Aiと接触により相互に作用する。実際、垂直クラッチはそれぞれ、その回転軸が並進移動可能な少なくとも1つの歯車Eiを含む。歯車Eiの回転軸という表現は、その周りを回転する歯車Eiに対して固定、とりわけ歯車と歯車がその周りに回転される真Aiに対して固定、される回転軸を指すことを意図される。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

この場合のムーブメントの実施形態は、3つの修正輪列、すなわち日付用修正輪列CH1、第2カレンダー表示用修正輪列CH2、及び時計の時刻設定用輪列CH3、を含む。可動体4は、例えば制御歯車1と同軸に旋回する。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

ここで説明する実施形態において、従来の巻上げ輪列CH1'は、図3に図示するように、一体であってムーブメントフレーム要素の平面上での変位を許可するよう可動体4上で旋回する補助制御歯車1'経由で、制御歯車1と直接且つ恒久的に噛み合う歯車E1'によって、噛み合う。当該実施形態において、巻上げ輪列は、可動体4により制御される水平クラッチD1'を用いて作動されてもよい。このように異なる輪列は、可動体4の回転により作動され、同一の制御歯車1により回転駆動される。各修正輪列の作動は、可動体4の異なる角度位置により決定される。

【誤訳訂正10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0042

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0042】

有利には、歯車1、1'は、ムーブメントフレーム要素の両側に配置される。更に有利には、可動体4は、図4に図示するように、2つの部材の間で旋回する。

【誤訳訂正11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0043

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0043】

ここで図示する実施形態において、可動体4は、真3の並進の影響により回転変位される。更に詳しくは、真の軸方向の牽引により、時計の修正機能を順次選択可能とし、真への軸方向の圧力により巻上げ機能を順次選択可能とする。軸方向の圧力はまた、同時に、修正機能の選択の順序をリセットすることを可能とする。このため、当該デバイスは、真を押す方向の、真の並進作動は、小型時計の巻上げ機能を発揮させ、真の引張り方向の、真の並進作動は、修正機能の作動を発揮させるように配置される。

【誤訳訂正12】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

選択装置は、フレーム要素に回転自在に搭載される真3と可動体4とを含む。可動体4の位置は真と真の変位の連続により決定される。上述のように、可動体の位置が、クラッチの作動または停止状態を決定する。とりわけ、可動体の回転方向は、真の並進方向により決定される。可動体4の回転は双方向である。

【誤訳訂正13】

【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0047
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【0047】

この目的において、選択装置は、第1方向に連続して可動体を駆動するための部材90を用いて、可動体4を作動させる真3を含む。

【誤訳訂正14】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0052
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【0052】

このように、真3は、可動体4の回転により選択された巻上げ機能または修正機能の作動を許可するよう、オシドリのばねR5により安定した状態に位置される。当該構成において、可動体4の角度位置は、割出しつめ8により定義される。当該つめは、例えば戻しばねR8と一体に製造される。図6は、選択された機能がムーブメントの巻上げ機能である、当該構成を示す。つめ8のくちばしは、ここでは可動体4の第1歯40aを割り出す。このように装置は、可動体4をその位置に割り出すつめ8を含む。このため、可動体4は、連続駆動部材、とりわけ第3レバー、と相互作用するよう配置される歯部40を含む。加えて、割出つめ8は、第2レバーと相互作用するよう配置され、とりわけつめに対する第2レバーの作動がつめを停止させるよう配置される。

【誤訳訂正15】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0053
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【0053】

真3と一体であるりゅうず31へ引き抜き力を適用することは、従来の手段を介して第1レバー5の旋回軸P5周りの回転を引き起こし、これにより、図7に示すように、レバー6の経路C6と相互作用することが意図されるオシドリピンG5の影響下で、第2レバー6の旋回軸P6周りの回転を引き起こす。このように、可動体4が歯部40の角度ピッチで回転の第1方向に旋回駆動され、例えば図8に示すように、巻上げ輪列との解放と日付修正機能の締結を許可するよう、爪7はレバー6上で、そのくちばしが可動体4の歯40eと相互作用可能なように、駆動される。

【誤訳訂正16】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0054
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【0054】

巻真りゅうずの解放は、オシドリばねR5の影響下、真3の軸方向の再位置決めをもたらす。再位置決めの間、第1及び第2レバーは、同様にその静止位置に再位置決めされる。第2レバーの再位置決めの間、爪は可動体4の歯の動作の下で、後退する。これは、ばねR7の弾性変形により可能となる。このため図8は、日付の修正を選択する位置にある機構を示す。この場合、つめ8のくちばしは、可動体4の第2歯40bを割り出す。

【誤訳訂正17】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0055
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0055】

当該構成において、図9に示すように、真A1の先端EA1は、戻しばねR1の影響下で、可動体4の窪みC1内に位置される。歯車E1の、日付修正用可動体10、とりわけ日付修正用可動体10の歯車10'、との噛み合いは、このように確立される。

【誤訳訂正18】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0056

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0056】

この構成において、真A2、A3のそれぞれの先端EA2、EA3は、可動体4の表面S4に当接する。その結果、他の2つの修正輪列が解放される。例として、図10は、時刻設定用の輪列の解放を示す。この場合の歯車E3は、日ノ裏装置11、とりわけ日ノ裏車11'に届かない。このように、真は、輪列の表面またはカムの表面に対してばねにより戻されるフォロワーの役割を果たす。

【誤訳訂正19】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0057

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0057】

上述と類似の態様で、真3へ新たな引張り力を適用することで、歯部40の角度ピッチにより、回転の第1方向への可動体4の旋回を引き起こし、これにより、日付の修正輪列の解放と第2カレンダー表示の修正輪列の噛み合いを許可する。図11は、真A1の先端EA1をばねR1の動作に対抗して可動体4の表面S4へ再位置決めした可動体4の、窪みC1の側面F1の作動によって解放された、日付の修正輪列を図示する。

【誤訳訂正20】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0058

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0058】

上述と類似の態様で、真へ新たな引張り力を適用することで、歯部40の角度ピッチにより、回転の第1方向への可動体4の旋回を引き起こし、これにより、図12に示すように、第2カレンダー表示の修正輪列の解放と時刻の修正輪列の噛み合いを許可する。この構成において、真A3の先端EA3は、戻しばねR3の影響下、可動体4の窪みC3内に位置する。歯車E3の日ノ裏装置11、とりわけ可動体の日ノ裏車11'、との噛み合いは、このように確立される。

【誤訳訂正21】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

ここで説明する実施形態では、前に選択された修正機能にかかわらず、真への軸方向圧力が、ムーブメントの巻上げ輪列を作動させる。この目的において、回転の第1方向への可動体4の回転は、戻しばねR4の巻上げを引き起こす。戻しばねR4は、図5に示すように、その第1先端E1R4がムーブメントのフレーム要素に固定され、第2先端E2R4が可動体4に固定される。このように、可動体4の角度方向の解放は、戻しばねR4の

影響下で、可動体 4 が、ムーブメントの巻上げ輪列が噛み合うときに可動体 4 が占有する角度位置を再度採用するまで、回転の第 2 方向の旋回を引き起こす。連続駆動部材、とりわけ爪 7 とつめ 8 は、真に発揮される軸方向圧力の影響下で、後退することが意図される。この目的において、つめ 8 は、先端 E 8 と E 6 の相互作用により、第 2 レバー 6 の影響下で後退することが意図される。つめ 8 は、その戻しばね R 8 の作動により、可動体 4 の歯部 40 内の位置に戻る。

【誤訳訂正 2 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0061

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0061】

代替的な変形実施形態において、可動体 4 は、例えば、窪み C 1 が設けられたオシドリであって、そのレバーが上述した選択装置により、または 2 つ、3 つ、または 4 つの位置を有する従来の制御真により、旋回駆動されるオシドリで実施されてもよい。代替的に、可動体 4 は同様に、選択部材の影響下で回転駆動されてもよく、選択部材は、例えばベゼルまたは第 2 選択真など、巻上げ及びまたは修正機能の作動を許可する部材と異なってもよいし異ならなくてもよい。